

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会（第25期・第4回）
議事要旨

日時： 令和5年1月10日（火）10:00～12:00

会場： Zoomによるオンライン会議

【出席】 古屋正人，荒木博志，市川隆一，大坪俊通（オブザーバー），太田雄策，小澤拓，田中愛幸，
宮原伐折羅，渡邊俊一（敬称略）計9名

【欠席】 青山雄一，伊藤武男，高木悠，宮崎真一（敬称略）計4名

配布資料

資料1：2019-2023年期第8回IAG Executive Committee会合報告

議題

- (1) IUGG2023 へ向けた各賞への推薦について
- (2) IAG Officers (2023-2027) への推薦についての報告
- (3) IAG Executive committee の報告
- (4) その他

1. IUGG2023へ向けた各賞への推薦について

古屋委員長より，IUGGの3賞（Early career scientist award，フェロー，ゴールドメダル）およびIAGのGuy Bomford賞について，応募資格と締切を委員間で共有した。

2. IAG Officers (2023-2027) への推薦についての報告

古屋委員長より，次期IAG役員の現時点での候補者が紹介された。日本からも推薦したが，Nomination Committeeが選出した2名には残らなかった。今後の選出スケジュールについて，4月中に候補者リスト配布，5月に投票・決定との報告があった。

3. IAG Executive committeeの報告

宮原委員より2019-2023年期第8回IAG ECについて資料1に基づいて報告があった。主要な点をピックアップすると以下のとおり。

- ・パリでハイブリッド形式で開催され，半数弱が対面で参加
- ・重力場に関する標準であるIGRS Convention2020をIAG/IUGG2023で決議する方向で活動が進められている
- ・IAG事業について，ILRSの新しい衛星・観測局の追加，IVSのVGOSで相関処理が課題となっていることが報告された
- ・衛星海面高度計に関する事業として従前から議論があるIASについて，次回のIAG ECで関係者を招いて報告を受けることとなった。InSARで面的に沿岸の海面高度を測ることのできるSWOT衛星がごく最近打ち上げられたが，ECでは特に報告はなかった。
- ・IAGのアウトリーチ部門のGGOSとの連携が模索されている。
- ・IUGG 2023の準備状況について報告があった。
- ・海洋測地に関するICCM（ICC on Marine Geodesy）の活動状況が紹介された。なお，1月初旬に開催された海底測地データ標準化WGには，米国，カナダ，欧州，日本（渡邊委員

ほか3名)からの参加があった。

- ・次回ECは、4月のEGU2023総会の前後を予定
- ・2022年開催の第27回国際度量衡総会(CGPM)において、うるう秒のtoleranceを拡大することが決まったことが市川委員より報告された。公式の参考情報は下記の通り、
<https://www.bipm.org/en/cgpm-2022/resolution-4>

4. その他

古屋委員長から、地球惑星科学委員会の情報、学術会議の運営方針に関する声明の発表された経緯について報告があった。

次回IAG小委員会は、JpGU前後を予定。